

令和4年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

パプリカ栽培では長期にわたって収穫し多収をめざすには、主枝を垂直に伸ばし続けるのが望ましいが、軒高の低いハウスでは長期にわたって主枝を確保するのが難しい。そこで、県外の優良事例である「主枝斜め誘引方法」に取り組み増収効果の検証を行う。

2 実施状況

(1)誘引方法

誘引ワイヤーにスライド移動できる専用フックを設置し、そのフックから誘引糸を垂らし、専用クリップで主枝と誘引糸を固定し、誘引ワイヤーを越えた主枝長の分を横方向にずらしていく。

(2)調査結果

ア 誘引時間（9月22日から12月まで）

区	所要時間
試験	71分/10a
慣行	250分/10a

12月までの誘引時間は試験区は71分、慣行区は250分で、試験区は慣行区の3割弱の作業時間であった。

慣行区は当初たこ糸で誘引したが、糸が枝にくい込み一部枝の折損があったため、ポリエチレン製誘引ひもにとりかえる作業を要した。

慣行区は今後誘引作業の必要はないが、試験区は引き続き作業が必要になる。

イ 節数（3月26日現在）

慣行区の摘芯開始日：令和5年2月17日

摘芯位置：高さ約2m

区	節数
試験	27節
慣行	25節

慣行区はほとんどの枝を摘芯したため、今後開花、着果はほぼ期待できないが、試験区は今後も主枝を伸ばしていくため着果、収穫が期待できる。



慣行区 摘芯を実施



試験区 摘芯せず主枝をずらしていく

ウ 収量調査

収量調査結果（R5.3.17までの実績）

（単位：個/10a,kg/10a）

区		12月	1月	2月	3月	合計
収穫個数	試験	24,200	10,200	11,000	26,800	72,200
	慣行	16,800	9,600	9,600	27,000	63,000
収穫重量	試験	3,867	1,338	1,738	4,084	11,027
	慣行	2,533	1,128	1,411	3,983	9,055

収穫個数・重量ともに慣行区より試験区が高い。慣行区は枝の折損の影響もあると考えられる。

3 今後の課題、取り組み

収量調査、労働時間調査、収益性の把握